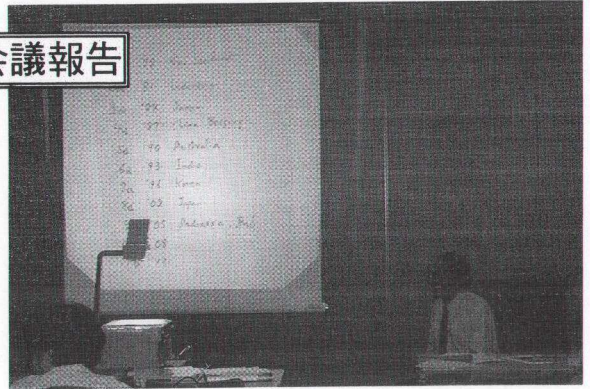


第8回 IAU アジア・太平洋地域会議報告

2002年7月2日～5日の4日間、日本学術会議天文学研究連絡委員会（IAU 国内委員会）、国立天文台、日本天文学会の3者の共催により、学術総合センター・一橋記念講堂において第8回 IAU アジア・太平洋地域会議（APRM）を開催した。会議への参加者は462名、うち外国から148名で、23の国・地域にわたっている。APRMがこれほどの規模にまで成長したことは、グローバル化した現代にあっても地域集会の持つ重要性を強く示唆している。

本会議においては、4つの全体集会と6つの分科会において、28の招待講演、75の口頭発表、266のポスター発表があり、天文学の最新の成果が数多く発表された。また、オスロ大学の Refsdal 教授による「天体物理学の手段としての重力レンズ」と題する特別講演もあり、好評であった。会議の Proceeding は、LOC から花輪氏、SOC から John Hearnshaw 氏（ニュージーランド）、SOC 委員長の池内が担当することになった。さらに、2つのビジネス・セッションにおいて、今後のアジア・太平洋地域集会と地域内ジャーナルやネットワーク形成などについての議論がなされた。引き続き7月5日、6日の両日に、4つのサテライト集会も開催された。

今回の集会で合意された重要事項は、次回以降の APRM 開催の下相談をするとともに、地域内ジャーナルやネットワーク形成のための諸問題を議論するために、IAU アジア・太平洋地域の常置委員会を設置するということである。当面、今回の APRM の SOC メンバー（各国・地域から1人）あるいはビジネス・セッション参加者が委員となり、座長は最近の APRM の開催国、副座長は次期開催国から選出することとし、次回の APRM まで池内が座長を務めることになった。現時点では、常置委員会に、オーストラリア、カナダ、中国 Beijing、中国 Taipei、チリ、インド、インドネシア、日本、韓国、ニュージーランド、ロシア、米国、イラン、アゼルバイジ



次の開催地を議論している BS1 の様子

ャンが参加している。

早速、この会議で次回の APRM 開催について議論を行い、インドネシアを代表して Raharto 教授から開催の意向がしめされたので全員一致で承認した。2005年7月4日から7日の間、パリで開催する予定である。また、第10回以降の候補として、オーストラリア、中国 Taipei、ニュージーランドの名が挙がり、2005年の APRM までに常置委員会で検討することとなった。また、地域内ジャーナルについては、各国・地域の天文学会に対して、ジャーナル出版の状況や国際誌要求の有無などについてアンケートをとり、1年後のシドニー総会の際に常置委員会を開催して議論することになった。

本会議は、文部科学省、国立天文台、日本天文学会 IAU 京都総会記念基金、天文学振興財団、IAU 本部から資金援助を受け、また神林財団および多数の研究者からの寄付を得て、外国からの参加者に旅費補助をすることができた。深く感謝したい。

また、LOC のメンバー（長谷川哲夫（委員長）、杉山直、花輪知幸、嶺重慎、土居守、蜂巢泉、満田和久、上野宗孝、福島登志夫、敬称略）、秘書の赤堀さん、野口さん、泉さん、およびアルバイトの皆さんの奮闘があればこそ、無事 APRM を開催できた。大いに感謝したい。

池内 了（実行委員長）